# 嘉代子桜（２世）

この桜の苗木は、原爆で約1400人の児童らが犠牲となった長崎市城山町の市立城山小（当時は城山国民学校）の校庭東側の一角にある「嘉代子桜」から接ぎ木して育てられた苗木です。

長崎に原子爆弾が投下されたのは、昭和20年（1945 年）8月9日11時2分のことです。

当時、城山小学校は「城山国民学校」と呼ばれていました。学校では、たくさんの学生が、「学徒報告隊員」として働いて、原子爆弾の犠牲になりました。長崎県立高等女学校4年生で、15歳だった林嘉代子さんもそのひとりです。花が好きで、心優しい嘉代子さんを偲んで、お母さんの林 津恵さんは、城山小学校の校庭に桜の木を植えました。満開の桜の花が、娘の嘉代子さんと、多くの女子学生の 魂 をなぐさめ、家族を失った人々のはげましとなるように、お母さんは願いを込めました。現在も、「嘉代子桜」は母と娘の平和の心を伝えています。

三原小学校は、ふたりの深い愛情を忘れることなく、平和の願いをもっと広く伝えていくために、「嘉代子桜2世」をここに植えて育てていくことにしました。

城山小学校の「嘉代子桜」とともに、これから「嘉代子桜２世」も、毎年、美しい花を咲かせ、ひとりでも多くの人々に、平和の心が広がっていくことを願っています。